

平成27年4月3日(金)

老球の細道135号

もし高校バスケットボールのコーチがドラッカーの『マネジメント』を読んだら

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

以前アイドルグループ「AKB48」のプロデュースに携わった岩崎夏海氏が『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの〈マネジメント〉を読んだら』という本を書いて大ベストセラーになった。この小説の舞台は東京の公立高校で、偏差値が60を超え、進学率100%、毎年数名の東大合格者を出す進学高校である。その野球部のマネージャーが、文武両道の理想のために、経済学者ドラッカーが書いた経営書バイブル『マネジメント』を野球部のチーム創りに応用し、弱小野球部を甲子園に導く話である。

バスケットボールのチーム創りにも何か役に立つのではと、学校の図書館から借りて読んだことがある。本の中では高校野球のマネージャーという設定だったが、コーチ、監督の立場でも考えさせられる話が満載であった。それもそのはず、ドラッカーのいうマネージャーとは、経営者、管理人、監督という意味で、マネジメントとは、管理、処理、経営ということである。

この本の中で次の内容が印象に残り、重要な宿題を与えられた。

【マネジメントには、自らの組織をして社会に貢献させるうえで三つの役割がある。それら三つの役割は、異質ではあるが同じように重要である。

- ①自らの組織に特有の使命を果たす。マネジメントは、組織に特有の使命、すなわちそれぞれの目的を果たすために存在する。
- ②仕事を通じて働く人たちを生かす。現代社会においては、組織こそ、一人ひとりの人間にとって、生計のかて、社会的な地位、コミュニティとの絆を手にし、自己実現を図る手段である。当然、働く人を生かすことが重要な意味を持つ。
- ③自らが社会に与える影響を処理するとともに、社会の問題について貢献する。マネジメントには、自らの組織が社会に与える影響を処理するとともに、社会の問題の解決に貢献する役割がある。】

小説の主人公マネージャーは③の問題について、社会の問題に貢献するという事を「学校」に対する貢献ということに置き換えて考えている。野球部の強みを活かして学校に貢献できる、そのことによって野球部そのものが生き生きできることは何かと。

このことを、わがバスケットボールに置き換えるとどうなるのだろうか。今私たちは毎日一生懸命バスケットボール活動に頑張っているが、それが自分の属する学校や組織にとっては何らかの貢献になっているだろうか。県大会優勝や全国大会などに常時出場して、マスコミ等にもいつも取り上げでもされれば学校の評判を上げる貢献になるかもしれない。しかし、現実には毎日の学習活動の妨げになっていたり、進路指導のお荷物になっていて、クラス担任や保護者の頭痛の種になどになっているのではないだろうか。

小説の中では、主人公が野球部で実施しているマネジメントを他の部へ伝達することによって、学校全体の部活動活性化に大きな貢献をした。各校のバスケットボール部員はどのようにして学校に貢献し、どのようにして周囲から「優勝させたい〇高校バスケット部」という風評を勝ち取るか。これは皆に考えてもらいたい春休みの宿題である。